

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100469		
法人名	特定非営利活動法人よつば荘		
事業所名	グループホームよつば荘		
所在地	宮城県美里町北浦字船入2番地61		
自己評価作成日	平成 30年 11月 2日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成30年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームよつば荘では、毎朝ラジオ体操、口腔体操、ペットボトルダンベル運動、スクワット体操等、無理のない程度に行っています。その後、歩行可能な利用者様は、施設の20メートル程ある廊下を5往復、職員が見守りながら歩行訓練をしています。職員が強制的にさせているわけではなく、利用者様自身が「丈夫な体でいたい」という思いから続けていることです。歩行が困難な利用者様も、職員が介助しながら歩ける範囲で歩行訓練をしています。よつば荘全体で、「愉快地に豊かに」過ごせるように、日々頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年2月、長年の望みを叶え移転した。入居者の環境を変えたくないとの理事長の考えで同じ町内会への移転となった。入居者の思いを大切にしながら、様々な事に挑戦し理念である「ゆっくり・ゆかいに・ゆたかに」を実践している。ホームでは平成最後の終戦記念日に「その時自分は何をしていたか」の体験談を发表し、互いに共感しあいながら家族のように暮らしている。入居者が家族に「ご飯美味しい、外出楽しかった、入浴気持ちよかった」と話し、「家族から良かったと言って貰えることが職員の励みであり、やりがいのある仕事だ、今後もっともっと良くしていきたい」と話している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームよつば荘 )「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・ゆかいに・ゆたかに」の理念に沿って、利用者様個人の時間の流れを大切にしている。	2月1日の移転に伴い見直した。起床時間、食事ペース等個性がある。急がずゆっくりその人に合わせたケアをする事により豊かに愉快地過ごせるのではないかと今のまでの考えを継続した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	よつば荘の催しがあるときは、積極的にチラシを配り、訪問して頂けようとしている。朝市に毎週利用者様と買い物にも出かけ、地域の方々と挨拶をしながら交流を深めている。	同じ町内会への移転で、近隣との交流は継続している。移転時には近隣の手伝いがあった。協力医主催ののど自慢大会には入居者が民謡を披露した。ホーム主催のスマイルカフェは口コミで参加者が増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のなかで、認知症の実体験に基づく症例などを挙げて、話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し、利用者様の近況報告や、地域の情報交換等の話し合いを行っている。	年6回包括職員参加のもと開催している。駐車場の縁石設置の要望があった。区長から認知症対策のアドバイスを求められ、夕暮れ症候群の話しをしている。避難経路を知って貰い避難時の協力を依頼している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様の意見交換をしたり、美里町の講習会にも参加している。	美里町のグループホーム連絡会に出席している。身体拘束適正化検討委員会の講習会があり話し合っている。法改正や他市町村からの入居者受け入れ手続きについて相談、確認している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会を定期的に開催し、具体的な行為を確認して、業務にあたっている。利用者様の身体状況を把握し、拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化検討委員会を3か月に1度開催し、必要時には運営推進会議で話し合っている。ホーム内や他町で、ベッド柵、抑制、薬の過剰摂取等の講習があり、不参加者へは研修報告をして職員間で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで話し合い、言葉遣いに気を付けて、利用者様の意見を傾聴する姿勢を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング、勉強会などを実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族様が訪問した際などに、疑問点や要望などを聞くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見などがあれば、申し送りの際やミーティングで議題に出し、解決するように努めている。	常に理事長が面会者の話を聞いている。家族から感謝の言葉が多い。入居者が知り合いに手紙を出し、情報を得ることでふさぎ込む入居者に職員が歩み寄るなど、入居者と家族の思いに寄り添っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報・連・相を主体に職員の意見を聞く機会を設けている。	朝の申し送りや毎月のミーティングで話を聞いている。何かあればその都度話し合っている。移転に伴う居室のレイアウト、トイレや風呂の手摺り、各部屋の物干し棒取り付け等意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の年齢や得意分野など、適材適所を見極め、個人が働きやすい職場になるように気を付けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加できるように、勤務時間の調整などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や、美里町グループホーム連絡会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中で、不満や不安がないか、居室にて傾聴する機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と個別の面談をし、信頼関係を保ちながら要望を聴くように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状況を把握し、ニーズを検討して対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をし、何気ない会話のなかで、本当の家族のように接するように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の置かれている状況や環境を踏まえ、関わりを持てるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々、利用者様の地元へドライブをしに出掛けたりしている。	入居時のアセスメント、その後の何気ない会話から馴染みの関係を知り、継続に繋げている。入居男性の小学校の同級生が頻繁にお土産持参で会いに来る。同じ地域の出身者同士で話しが弾み、仲良くしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話がうまくいかない利用者様や、利用者様同士の関係がうまくいっていないときは、間に職員が入り、サポートするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば随時対応している。催しがあれば声掛けをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の自己決定を引き出せるよう促し、プランに検討している。	時間のあるとき居室に行き、本人から言い出すように個々に合わせて好きな話題やスキンシップをしながら引き出している。寂しくて話す場合もあり、話を聞きながら判断している。必要な事は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生まれた環境、兄弟、嗜好などを職員が把握し、日々の業務に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやミーティングで現状を理解し、ケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアを通して、スタッフと情報交換し、定期的に家族を交えてケアプランを作成している。	本人や家族、職員、医師の助言を貰い作成し、職員間で共有している。廊下で歩行訓練を取り入れたり、上肢筋力を鍛える車いす自走を盛り込み、自立につながった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りで利用者様の状態や変化を把握して業務にあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の日々の変化に合わせ、状況により対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様のできる範囲で家事のお手伝いをして頂き、役割をもって生活の質を上げて頂けるようにサポートしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	スタッフが一緒に付き添い受診している。直接、利用者様の主治医とかかわっている。	かかりつけ医は協力医であり、医師の要望により看護師が付き添い、結果を家族に報告している。協力医から入居者の紹介がある。協力医は夜間休日緊急時対応をしている。専門医受診時も看護師が付き添う。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細なことでも報告して、看護師から適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーなどを使い情報交換の体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態により、状況を速やかに家族に連絡している。	重度化、終末期の文書があり、本人、家族の希望により看取りを行っている。看取り期になった2名を受け入れたが、ホームでの理念を元にした介護により状態が回復し、現在は協力医による訪問診療となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の定期的な訓練の講習に参加し、内部研修で他の職員に報告をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議のなかで、近隣住民と協力体制を話し合っている。	夜間想定訓練を含め年2回実施している。運営推進会議の中で地域の協力を依頼しているが、具体的役割の話し合いがなされていない。役割を明確にし、訓練への住民参加をお願いしたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの生活観を否定せず、会話するうえでも耳を傾けて接するように気を付けている。	入居者は職員を家族と思い、互いに遠慮は いらないという雰囲気がある。起床や食事の 時間は、本人を尊重している。入浴時は目線 に注意している。言葉遣いは職員自身がス ピーチロックを意識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	信頼して思いを話していただけるような空間 づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、挨拶をするときに顔色・体調を確認して いる。要望などがないかなどの質問をして いる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	季節に合わせた衣服を用意して、利用者様 に選んでいただいている。髪も定期的に整 えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	利用者様の好物を把握し、見た目と季節の 素材に配慮して提供している。後片付けを 利用者様も一緒に行っている。	メニューは差し入れや季節の食材で作って いる。食器運び、テーブル拭き、洗い物等入居 者と一緒に行っている。昨年好評だった誕生日 のカルボナーラは今年も希望があった。外泊 や外出時に外食をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	毎日、食べた量、水分量を記録している。体 調に合わせて調節している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	起床時、就寝時、声がけをして一部介助で 行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	二人介助でトイレでの排泄を介助することもある。昼間はトイレでの排泄を促すようにしている。	日中は排泄チェックシートでパターンを把握し、トイレでの排泄を目指している。筋力低下のため立位保持が出来ない方は2人介助している。夜間は安眠を優先しリハビリパンツやポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたメニューが主になっている。医師指示にて、下剤の服用も考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の気持ち、体調に気を配り行っている。利用者様の希望に沿って支援している。	週2回、月曜日と木曜日に入浴している。その他シャワー浴や皮膚状態等の必要時に入浴している。シャンプー、ボディソープは希望により家族が持ち込んでいる。温めの湯等個々の希望に添っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握し、それに沿って支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の変化には日々申し送りしている。服薬のファイルを作り、職員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に一度の民謡教室・季節の行事など、気分転換に努めている。趣味やしてみたいことがないかなど、利用者様に尋ねるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1~2回、外出の機会を設けている。又、家族の方と外出の機会がもてている。	小遣いを持って近くのスーパーに買い物に行く、本の好きな方は市の図書館に行く。自宅の庭が見たくて帰る等、個々の満足が得られる外出をしている。松島の円通院は昨年好評で今年も計画した。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には小遣いを使い、職員が付き添いながら食べたいものや欲しいものを購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけ、写真、絵当、飾っている。	通りに面した壁にホームのマーク、四つ葉のクローバーがある。高い天井と大きな梁のあるリビングでスマイルカフェが開催される。廊下は広く長く、歩行訓練が出来る。途中にはフォトギャラリーがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士で居室の行き来をしている。好きな時にリビングでくつろいでもらったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品で過ごしていただいている。家族の方と相談しながらその都度、対応している。	各居室には加湿や洋服掛け等に使える物干し棒がある。本が好きな方は本を持ち込み家族が入れ替えている。テレビ、遺影、こけし、カレンダー、写真等好みで置いている。掃除は自分でする方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の意思に沿って機能訓練や生活の援助をしている。		